

令和7年度 武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告シート

団 体 名	特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会
アドレス（HP、X、FB等）	https://mtxa.org/
事業の名称	ハバロフスクでつながった友好 モンゴル “10 億本の植樹運動” 参加ツアー
事業の目標	2024 年より極東ユーラシアにも目を向けて、砂漠化防止や寒帯林保全のための植林活動を通して、自然環境保全や国際交流、さらには SDGs に貢献すべく、モンゴルでの事業展開をする。今回の事業はその目的に沿って、広く市民から植林ボランティアを募り、地球温暖化防止啓発のために現地の自然環境団体と協力をして現地の樹種を植樹する。
事業の内容（概要） いつ、どこで、誰に、何を、どうした	2024 年 9 月：植林ツアーのためのクラウドファンディングを企画・開始 2025 年 1 月：当協会会員・武蔵野市民等に向けて参加者募集開始（締切り 3/15） 5/2 14:30 成田発のアイモンゴリア航空 902 便でウランバートルへ 5/3 午前：シベリア抑留者が眠るダンバダルジャー日本人墓地敷地内でモンゴルサウ 50 本の植樹活動を行う。午後：自然史博物館・スポーツ広場等を見学。民族音楽鑑賞も行う。 5/4 午前：2024 年植樹地の自然植物研究園で 100 本の苗木の活着率調査を行う。午後イルジス国立公園に向い、自然環境を理解するために公園内にて宿泊体験を行う。 5/5 午前：ナライ地区のイルミーンオリギル総合学校で児童・生徒と共に 150 本の植樹活動を行う。午後：日本人抑留者の石切場跡地（ノゴーン・ノル）を見学。 5/6 8:00 ウランバートル発のアイモンゴリア航空 901 便で帰国。13:30 成田到着後に解散。
事業の成果（参加人数、実施回数、質など具体的に記入。）	参加人数 19 名（うち協会スタッフ 4 名）、別途空港待機スタッフ 1 名 1998 年から始めた植林ボランティアツアーとしては、23 回目。 初めての植樹場所となったダンバダルジャー日本人墓地敷地内には駐モンゴル日本国特命全権大使ご夫妻をはじめ大使館の方々も参加してくださった。今後毎年、この場所で植樹活動を行い“友好の森”を作り上げることとする。 また、現地総合学校の児童・学生 180 名とも交流をしながらの植樹活動が出来た。日本からの参加者が多くなったため、大型バスでの移動となったが、シベリア抑留者が強制労働させられた石切り場なども少し手前でバスを降りて歩いて訪問した。 合計 150 本の植樹本数ではあったが、充実した活動となった。 なお、2024 年度の植樹地の活着率調査で 91%という高活着率を得ることが出来たことも大きな成果である。
目標の達成度 （自己評価）	☒ 1. 達成できた ☐ 3. あまり達成できなかった ☐ 2. ある程度達成できた ☐ 4. 達成できなかった

令和7年度 武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告シート

自己評価の理由 ※公益性の増進、団体の発展性、実効性、補助金を除く資金調達の達成度などについて、具体的に記入。	公益性の増進：モンゴルにおいて10億本の植樹を目標に実施している企画に参加し、日本の市民一人ひとりにも環境問題を考えるきっかけや国際交流の重要性に気づいて貰える事業を展開し、その一端を担えた。また、日本人墓地敷地内における植樹活動を行う事で、抑留者の方々の思いや平和について考える一助にもつながった。 団体の発展性：現地総合学校とのつながりが出来、今後は大学等の教育機関にも協力を求めている。 実効性：日程的にも現場の段取りもスムーズに事業が実施できた。 資金調達：クラウドファンディングは実施したが、参加者による負担は大きかった。
今後の課題・抱負	植樹本数を増やすためにも、資金調達は大きな問題で、各種環境関係の補助金申請を打診したい。 現地のいくつかの団体とのつながりが出来たので、今後も継続して同様の事業を現地の市民にも呼び掛けて実施し、「木を植えよう」という気持ちを育んでいきたい。

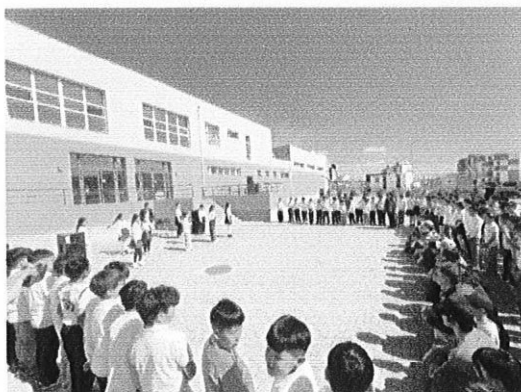
活動状況について



ダンバダルジャー日本人墓地敷地内での植樹活動



前年植樹地で活着率調査の様子



現地の総合学校で植樹前のセレモニー



児童・学生さんと交流しながら植樹



10億本運動参加の証明書